

廃食油回収始まる

BDF用、一般家庭に拡大

市は二十二日、一般家庭から出され、バイオディーゼル燃料(BDF)の原料となる天ぷら油などの植物性廃食油の回収を始めた。これまで学校給食センターなどに限られていた回収ルートを拡大し、月に一回実施する。

BDFは菜種油や大豆油などを原料に製造されるディーゼル燃料で、軽油に比べて二酸化炭素や硫黄酸化物などの排出量が少ない。

市は二〇〇六年度から学校給食センターや保育園の廃食油でBDFを精製し、給食の配膳車などの燃料に利用しているが、市民にも環境問題を身近に感じてほしいと、一般家庭の廃食油も集めることにした。

回収用のポリ容器は千種の市役所本庁と各支所の計十カ所に置かれた。本庁では高野宏一郎市長が「(BDFを)環境に

優しい島づくりのシンボルにしたい。この動きが全国に広がってほしい」とあいさつ。消費者協会のメンバーらが、持参した天ぷら油を容器に注いだ。

平清水の主婦、山本千代枝さん(左)は「廃食油の始末に困っていたので

回収は大変良いこと。環境にも優しい」と話していた。

集められた廃食油は島内の企業二社がBDFに精製、自社の重機の燃料などに使う。回収の問い合わせは市企画振興課特区・地域再生係、(63)4152。



BDFの原料となる天ぷら油をポリ容器に注ぐ市民=22日、千種の市役所